

北海道通信

令和7年11月12日【水曜日】

歴史と伝統を未来に

【函館発】函館盲学校（瘡師輝幸校長）と函館聾学校（飯出広行校長）は創立130周年を迎える10月25日に聾学校で記念式典を開いた（写真）。両校の在校生や同窓生ら約200人が出席。節目を祝うとともに、歴史と伝統を未来につないでいくことを誓い合った。

明治28年、米国婦人のシャロッテ・ピンクニー・ドレイバー氏が「函館訓聾会」と称して創設。障がいのある子どもを対象にした道内初の教育施設で、幾多の改称や移転を経て両校が設立された。卒業生は2400人を超える。式典は各校の児童生徒による校歌斉唱から始まった。函館盲

の在校生は元気な歌声を響かせ、函館聾の在校生は手話を通じて歌詞を伝えながら歌い、会場から大きな拍手が送られた。

瘡師校長は「子どもたちは自身の障がいと向き合い、困難さを克服・改善しようと努力しながら、一生懸命に楽しく学んでいる」とし、保護者や地域、関係者の支援に謝意を示した。

飯出校長は、同校の歴史や伝統をつなぐ責任に触れ「今後も子どもたち、保護者、卒業生、後援会、地域と手を取り合い、新たな価値を創り出していきたい」と手話を交えて伝えた。

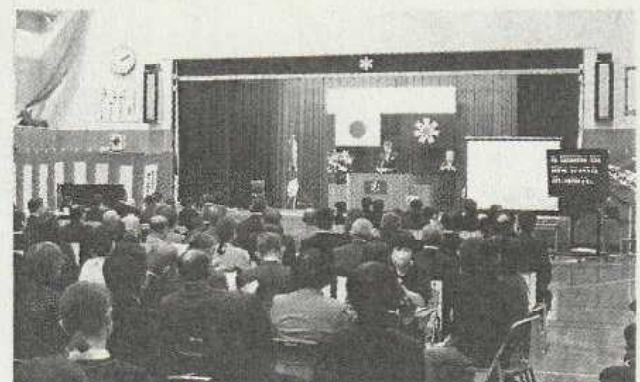
道教委の中島俊明教育長に代わり、北嶋公博教育指導監が祝辞。両校の専門性の高い教育、

地域との協働等による地域の特別支援教育の充実に敬意を表し、児童生徒に向けて「皆さんたい」と話した。函館聾の福井稜馬さん（中学部2年）は創立4年）は幼稚部からの思い出「い」と期待を寄せた。

函館盲の中村柚蒼さん（小学部4年）は幼稚部からの思い出「い」と期待を寄せた。

函館盲の中村柚蒼さん（小学部4年）は幼稚部からの思い出「い」と期待を寄せた。

このあと、函館盲同窓生の池田サラジェーンさん、函館聾同窓生の石井昌子さんが母校での思い出を語った。池田さんは音楽教員として母校に勤めており、恩師との出会いを振り返り、「好きなこと、得意なことを見つけ、将来に向けて極めてほしい」と児童生徒に呼びかけた。



このあと、函館盲同窓生の池田サラジェーンさん、函館聾同窓生の石井昌子さんが母校での思い出を語った。池田さんは音楽教員として母校に勤めており、恩師との出会いを振り返り、「好きなこと、得意なことを見つけ、将来に向けて極めてほしい」と児童生徒に呼びかけた。